

第126回愛知学院大学モーニングセミナー



谷崎潤一郎生誕130年

名作「春琴抄」から見るその人生

文芸評論家・愛知淑徳大学教授
清水良典

2016年9月13日

谷崎潤一郎（1886—1965）

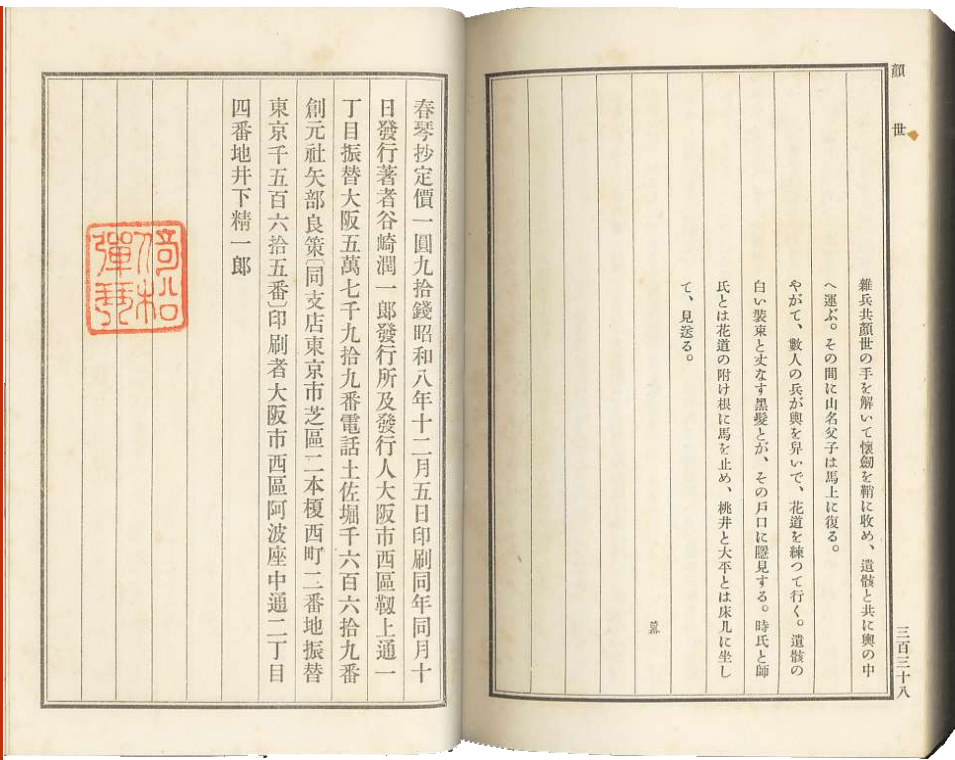


東京・日本橋生。神童として育つが、実家の没落によって書生体験をするなど苦勞をした。東大在学中に鮮烈なデビューを果たしたが、学費滞納で東大は中退。マゾヒズムを前面に出した享樂的で異端的な作風は耽美主義、悪魔主義と呼ばれたが、関東大震災をきっかけに関西へ移住してからは、日本の古典に回帰した名作を次々と発表し、文豪の評価を得た。戦後は「源氏物語」の3度にわたる現代語訳のほか、老人の性愛を描いた問題作を果敢に発表し、最期まで旺盛な創作意欲を示した。1960年から死の年まで連続してノーベル文学賞候補となっていた。

主な作品

「刺青」「秘密」「神童」「異端者の悲しみ」
「痴人の愛」「卍」「蓼喰う虫」「乱菊物語」
「吉野葛」「盲目物語」「蘆刈」「春琴抄」
「猫と庄造と二人のをんな」「細雪」
「少将滋幹の母」「鍵」「夢の浮橋」
「瘋癲老人日記」「台所太平記」など
随想「陰翳礼讃」「文章読本」





雜兵共顔世の手を解いて懐劍を鞘に收め、遺體と共に奥の中
 へ運ぶ。その間に山名父子は馬上に復る。
 やがて、數人の兵が輿を昇いで、花道を練つて行く。遺體の
 白い裝束と丈なす黒髪しか、その戸口に隠見する。時氏と師
 氏とは花道の附け根に馬を止め、桃井と大平とは床几に坐し
 て、見送る。

幕

春琴抄定價一圓九拾錢昭和八年十二月五日印刷同年同月十
 日發行著者谷崎潤一郎發行所及發行人大阪市西區靱上通一
 丁目振替大阪五萬七千九拾九番電話土佐堀千六百六拾九番
 創元社矢部良策同支店東京市芝區二本榎西町二番地振替
 東京千五百六拾五番印刷者大阪市西區阿波座中通二丁目
 四番地井下精一郎



『春琴抄』 あらすじ

書き手である「私」がたまたま手に入れた小冊子『鴟屋春琴伝』から、春琴について関係者を調べていくうちに、琴の名人であった春琴と、彼女の弟子でのちに検校となった佐助との数奇な関係が浮かびあがる。

大阪道修町の大店の娘に生まれながら9歳で盲目となり、気位が高く傲慢な性格に育った春琴と、忠実に仕える佐助の主従関係は、やがて三味線の師匠と弟子の関係となる。春琴が16歳の時に妊娠が発覚した際も、双方男女の関係を否定しつづける。独立して三味線の師匠となった春琴と同居するも、主従関係は変わらなかった。

美しい独身の春琴には言い寄る者が少なくなかったが、ことごとく春琴は拒否した。

ある夜、何者かが寝所の春琴の顔に煮え湯をかけ、春琴は重度のやけどを負う。その顔を佐助に見られたくないと悩む春琴を見ていて、ついでに佐助は縫い針を両目に刺し盲目となる。その行動を春琴は喜び、二人は変わらず固い絆の主従として暮らし続ける

鴉屋琴（春琴）

誕生 文政12（1829）年
大阪道修町の本店「鴉屋」の次女
9歳で失明

出会い	9歳
春琴専属の「手曳き」に	10歳
三味線の師弟関係	11歳
結婚の勧め断る	16歳
琴の妊娠・出産事件	17歳
師匠として独立	20歳
暴漢に襲われる	37歳
てる女内弟子に	46歳
没	明治19（1886）年 58歳

温井佐助（琴台）

文政8（1825）年
滋賀県日野町の薬屋の息子

13歳	「鴉屋」へ丁稚奉公に
14歳	
15歳	
20歳	
21歳	弘化2（1845）年
24歳	
41歳	
50歳	明治7（1874）年
明治40（1907）年（83歳）	

『春琴抄』より

そして無言で相對しつゝある間に盲人のみが持つ第六感の働きが佐助の官能に芽生えて来て唯感謝の一念より外何物もない春琴の胸の中を自ずと会得することが出来た今迄肉体の交渉はありながら師弟の差別に隔てられていた心と心とが始めて犇と抱き合い一つに流れて行くのを感じた少年の頃押入れの中の暗黒世界で三味線の稽古をした時の記憶が蘇生って来たがそれとは全然心持が違った凡そ大概な盲人は光の方向感だけは持っている故に盲人の視野はほの明るいもので暗黒世界ではないのである佐助は今こそ外界の眼を失った代りに内界の眼が開けたのを知り嗚呼此れが本当にお師匠様の住んでいらっしゃる世界なのだ此れで漸うお師匠様と同じ世界に住むことが出来たと思ったもう衰えた彼の視力では部屋の様子も春琴の姿もはっきり見分けられなかったが繻帯で包んだ顔の所在だけが、ぽうっと灰白く網膜に映じた彼にはそれが繻帯とは思えなかったつい二た月前迄のお師匠様の円満微妙な色白の顔が鈍い明りの圈の中に来迎仏の如く浮かんだ

発表直後の讃辞

「ただ歎息するばかりの名作で、言葉がない」
（川端康成「文芸時評」）

「聖人出づると雖も、一語も挿むこと能はざるべし」
（正宗白鳥「文芸時評」）

「『春琴抄』が多くの人を魅惑する第一の秘密は、あの作品が完全に実に完全に想像の世界といふものを築きあげてある処にあるのではないか」
（小林秀雄「文芸批評と作品」）

三人の妻と恋人①石川千代

大正4(1915)年 石川千代と結婚、翌年長女
鮎子誕生

大正10(1921)年 6月30日佐藤春夫から絶交状
「小田原事件」

昭和5(1930)年 8月千代と離婚
千代は佐藤春夫と再婚する旨の挨拶状を送り、
スキャンダルとなる

昭和6(1931)年 3月千代との離婚届提出



義妹せい子との恋と創作

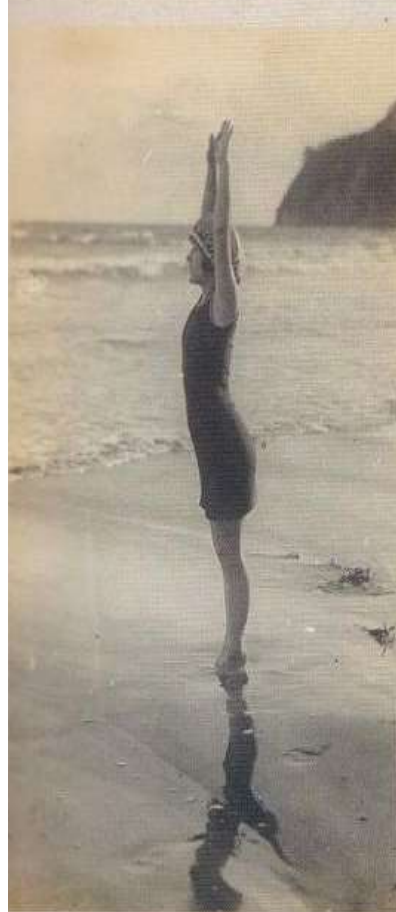


大正6(1917)年 千代の妹せい子を引き取る
当時15歳

映画……せい子が芸名「葉山三千子」で主演
「アマチュア倶楽部」(大正9年)
「雛祭りの夜」(大正10年)
「本牧夜話」(大正13年)

小説

「青い花」(大正11年)
「痴人の愛」(大正13～14年)
「赤い屋根」(大正14年)
「青塚氏の話」(大正15年)



映画「アマチュア倶楽部」にて、ケラーマンを思わせるポーズを取る葉山三千子（せい子）。「痴人の愛」にも、ナオミに対して「ケラーマンの真似をして御覧」と告げる場面がある。太田市立新田図書館蔵



か 魚 人 が 人
り 泳 泳 水 の 風 マー ラ ケ ・ ト フ ネ ナ
以上は既記の如く、アネット・ケラーマン主演の『乙女は何を恋するか』のスクリーン写真。波打ち際で伸びのポーズをするケラーマンの姿を、谷崎は後にせい子にもさせている。

『活動倶楽部』（大正9.10）に掲載された、アネット・ケラーマン主演「乙女は何を恋するか」のスクリーン写真。波打ち際で伸びのポーズをするケラーマンの姿を、谷崎は後にせい子にもさせている。

三人の妻と恋人②古川丁未子

- 昭和6(1931)年 1月 古川丁未子と婚約
4月 丁未子と結婚
5～9月 高野山で『盲目物語』『武州公秘話』執筆、発表
10月 根津商店寮、11月根津家別荘に転居
暮れごろから「倚松庵」の号を用いはじめる
- 昭和7(1932)年 3月 根津家隣地に転居
11～12月 『蘆刈』発表
12月 丁未子と別居
- 昭和8(1933)年 5月 丁未子と協議離婚成立



三人の妻と恋人③根津松子

- 昭和2(1927)年 3月1日根津清太郎夫人の松子と会う
- 昭和6年 4月丁未子との新婚旅行で、同行の松子と深夜キス
5～9月高野山で『盲目物語』『武州公秘話』執筆、発表
10月根津商店寮、11月根津家別荘に転居
暮れごろから「倚松庵」の号を用いはじめる
- 昭和7(1932)年 3月根津家隣地に転居、松子に愛を告白
11～12月『蘆刈』発表
- 昭和8(1933)年 6月『春琴抄』発表
- 昭和9(1934)年 3月松子と同棲
- 昭和10(1935)年 1月松子と結婚



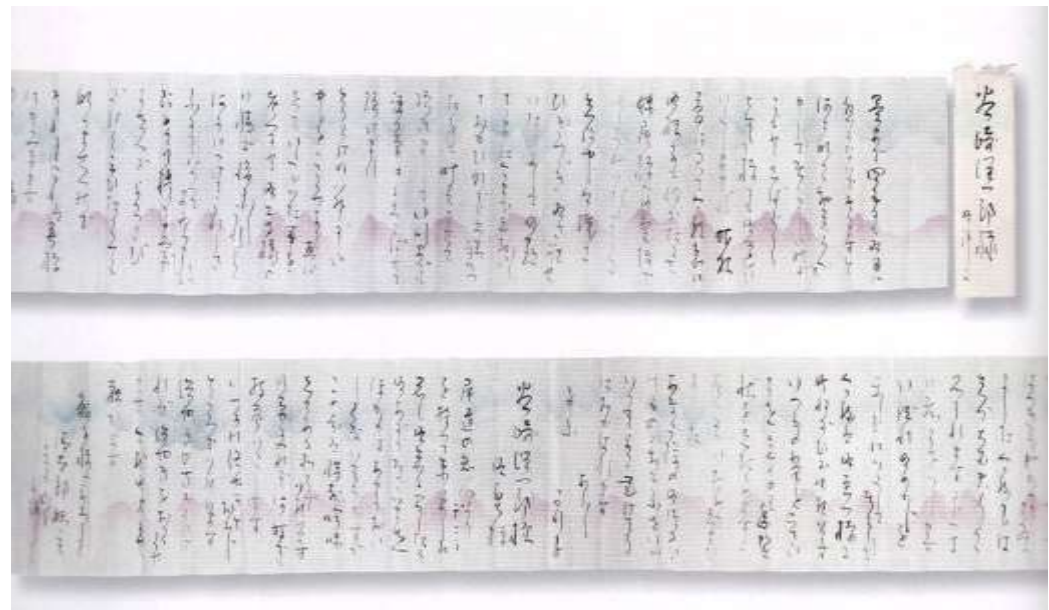


北野恒富〈茶々殿〉(大正10年の院展に出品)。松子の容貌を参考にしたという本作を、容崎は『盲目物語』(昭和7年2月 中央公論社)の口絵に使用(本誌138頁参照)。大阪府立中之島図書館蔵



- 大正4(1915)年 石川千代と結婚、翌年長女鮎子誕生
- 大正6(1917)年 千代の妹せい子を引き取る 当時15歳
- 大正9(1920)年 大正活映で、せい子主演(芸名:葉山三千子)で映画「アマチュア倶楽部」制作
- 大正10(1921)年 6月30日 佐藤春夫から絶交状「小田原事件」
- 昭和2(1927)年 3月1日 根津清太郎夫人の松子と会う
- 昭和5(1930)年 8月 千代と離婚、千代は佐藤春夫と再婚する旨の挨拶状を送り、スキャンダルとなる
- 昭和6(1931)年 1月 古川丁未子と婚約
3月 千代との離婚届提出
4月 丁未子と結婚
新婚旅行で、同行の松子と深夜キス
5～9月 高野山で『盲目物語』『武州公秘話』執筆、発表
10月 根津商店寮、11月根津家別荘に転居
暮れごろから「倚松庵」の号を用いはじめる
- 昭和7(1932)年 3月 根津家隣地に転居、松子に愛を告白
11～12月 『蘆刈』発表
12月 丁未子と別居
- 昭和8(1933)年 5月 丁未子と協議離婚成立
6月 『春琴抄』発表
- 昭和9(1934)年 3月 松子と同棲
- 昭和10(1935)年 1月 松子と結婚

発見された恋文



昭和7年8月14日

「本日、丁未子に大体話しました。兎に角僕の心持だけは了解してくれ、今後文通と自由行動だけは取れることになりました。」

同 9月2日

「自分を主人の娘と思へとの御言葉でございましたがその仰せがなくともとくより私はさう思つて居りました一生あなた様に御仕へ申すことが出来ましたらたとひそのために身を亡ぼしてもそれか私には無上の幸福でございます、はじめて御目にかゝりました日からぼんやりさう感じてをりましたが殊に此の四五年來はあな様の御蔭にて自分の芸術の行きつまりが開けてきたやうに思ひます、私には崇拜する高貴の女性がなければ思ふやうに創作が出来ないのでございますがそれがやう\ / 今日になつて始めてさう云ふ御方様にめぐり合ふことが出来たのでございます 実は去年の「盲目物語」なども始終あなた様の事を念頭に置き自分は盲目の按摩のつもりで書きました

(中略)さればあな様なしには私の今後の芸術は成り立ちませぬ、もしあなた様と芸術とが両立しなくなれば私は喜んで芸術の方を捨てゝしまひます(中略)今日からは御主人様と呼ばせて頂きます

「主従」としての結婚

昭和7年12月

証

私事先般丁未子と双方合意を以て離別仕候 然る上
は貴女様自由の身と御なり被成候節ハ適當の時を撰
び万難を排して結婚可仕候 右為後日誓約仕候也

(中略)

私事

御寮人様と結婚致候上ハ世の常の夫婦のわくにハ存
ぜず 御寮人様を御主人様と存じ何事も不平がましき
事を不申忠実に御奉公申上べく候 右為後日誓約仕
候也

昭和8年1月13日

「御寮人様の前へ出ますと何やらすつかり奉公人根性になりまして、急に自分が卑しく、哀れに見え、十七、八の丁稚のやうにいぢけてしまふのでござります(中略)ほんたうに、何卒これからは私を年下の丁稚と思召して下さいませ、そして礼儀作法や言葉づかひ等すべて大阪のお店風にお仕込み遊ばして下さいませ」

同 1月16日

「御寮人様へお願いがあるのでござりますが、今日より召し使ひにして頂きますしるしに、御寮人様より改めて奉公人らしい名前をつけて頂きたいのでござります、「潤一」と申す文字は奉公人らしくござりませぬ故「順市」か「順吉」ではいかゞでござりませうか。従順に御勤めをいたしますことを忘れませぬやうに「順」の字をつけて頂きましたらどうでござりませう。「潤一」の文字は小説家として売り込んでをりまする故 対世間的には矢張りそれを使ひますことをお許し下されまして、御寮人様と御一族の御嬢様方は新しい文字を御使い下さいましたらバ有難う存じます」

結婚の誓約書

昭和8年5月20日



証

今回御寮人様の御情を蒙り夫婦之契を御許被下候段勿体なき事に存候私事一生の願を叶て頂き候上は永久に御恩を不忘御寮人様の忠僕として御奉公申上げ主従の分を守り候ハ勿論私之生命身体家族兄弟収入等総て御寮人様所有となし被下御自由に御使用被下候ハシ難有儀に奉存候而又今後御寮人様御心変被遊候とも決而御恨みに存不申堅く貞節を守り候間何卒／＼御側に御召使被下様願上候

松子御寮人様

谷崎潤一郎

『細雪』に描かれた松子姉妹たち



『細雪』のモデル、松子とその姉妹。前列左次女松子、右長女朝子。後列左から
四女信子、三女重子、松子の長女惠美子。昭和24年



義妹重子への説明 昭和8年12月6日

「……作家に普通の結婚生活は無理であることを発見したからと申すのでございます。(中略)その原因は、芸術家は絶えず自分の憧憬する、自分より遥か上にある女性を夢みてゐるものでございますのに、細君にしますと、大概な女性は箔が剥げ良人以下の平凡な女になつてしまひますので、いつか又他に新しき女性を求めるやうになるのでござります しかし斯の如きことを繰り返してゐましてハ精神的物理的に打撃も大きくとも落ち着いて大きな仕事をする事ハ出来ませぬ、故に独身生活を送るか、然らざれば一生身命を捧げて奉仕致すに足るやうな貴き御方を得て、その御方の支配に任せ、法律上は夫婦でも実際は主従の関係を結ぶことだと考へて居ります、(中略)谷崎と云ふのは唯活字の上の名のみの存在で、実は御寮人様の芸術である 谷崎といふ人間はいないのだと云ふ風に世間が思つてくれること、これが望みでござります、(中略)されば収入等も自分で稼いだ御金でハなく全然御寮人様の物でござります 従て最小限度の御給金を頂きましたら結構でござります」